

11月29日（土） 鶴見緑地球技場

第1試合 桃山大 vs 立命大

残留のために負けは許されない、是が非でも勝ち点3を奪取したい立命大のハートが強く感じられた試合となった。

試合序盤は攻勢に出る立命大をしっかりと受け止めた桃山大ペースだった。しかし、幾度か訪れたビッグチャンスで放たれたシュートは、バーを直撃し、GKの攻守に阻まれ、枠外に逸れた。流れをモノに出来なかった桃山大とは対照的に、立命大は、セットプレーを立て続けに得点に繋げる。31分にCKから最後はFW⑦宮尾勇輝が豪快なボレー。直後の32分には、MF⑭内田昂輔が距離のあるFKを決める。桃山大の松本直也監督が「2点目が痛かった。」と語ったように、1失点目から気持ちの切り替えが間に合わない隙を突かれた桃山大はゲーム自体のリズムも失ってしまう。

対する立命大は、後半も内田の鮮やかなボレーとスーパーサブ・FW 36 伊藤了のゴールでゲームを決めた。「選手の自発性が高まっている。」（立命大・米田隆監督）という良いリズムを入替戦まで持続させたい。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

桃山大 0 $\left\{ \begin{array}{l} 0-2 \\ 0-2 \end{array} \right\}$ 4 立命大

得点(アシスト)者
31分 7 宮尾
(30 大西・27 内藤)
32分 14 内田
50分 14 内田(28 前野)
88分 36 伊藤(8 福本)

第2試合 同大 vs 姫獨大

戦前の予想通り、同大は4回生メンバーを中心に最終戦に臨んだ。

ただ、ここ数試合のメンバー変更が大きかった事も影響してか、全体的なバランスが悪い状態が散見される。簡単に姫獨大に裏を取られては、決定的なピンチを迎える。GK 41 堀之内義博の好守がなければ大量失点も有り得た。逆に、姫獨大にとっては、来季への弾みにするためにも勝利が欲しいところだっただけに、前半の決定機を1本でも決めておきたかった。

後半に入るとMF⑭北森陽介の巧みなキープからテンポを上げ始めた同大が姫獨大を押し込み始める。先制点は、54分。同大は、左から崩し、FW⑨松田直樹が頭ですませたところにFW 48 田中大輔が飛び込んだ。これで勢いを得た同大は、58分にもMF⑦神田哲也が技ありのトラップから冷静に流し込んで追加点。「消化試合ではなく、5位浮上というモチベーションで戦った。」（同大・望月慎之監督）試合をしっかりと勝ち、順位を上げてシーズンを終えた。

（文：サッカーライター ハヤシ ヒロヒサ）

同大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 0-0 \\ 2-0 \end{array} \right\}$ 0 姫獨大

得点(アシスト)者
54分 48 田中(9 松田)
58分 7 神田(6 出崎)

11月29日（土） 三木総合防災公園陸上競技場

第1試合 京産大 vs 大教大

まさに劇的なゴールでの幕切れだった。ロスタイム、ペナルティエリアを突破した大教大FW⑨森原慎之祐が最後に放ったシュートは一部残留への望みをつなぐゴールとなった。

「攻め込まれた」と大教大MF⑦仲宗根和主将が話のように、先制点を上げた京産大が試合を支配していた。既に残留が確定している京産大は、監督の宣言通り4回生8人を先発起用。特にMF 18 宮脇雄嗣はPKを決めただけでなくサイドからゴール前までの1人で突破し、大教大を脅かす存在だった。しかし、大教大の最後まであきらめない姿勢は、ゴールへとつながる。2点目のDF⑤大久保悟が放ったダイレクトボレーや、「ドラマチックなことが好きなチーム」（大教大・入口監督）という終了間際の森原の逆転ゴール。その執念は凄まじいものを感じた。

京産大は4回生一丸となって挑んだ引退試合で、有終の美を飾ることはできなかったが「全員が戦う姿勢を見せてくれた。悔いはない。」と古井裕之監督。MF⑦馬場悠企主将も「主将として残留という責任は果たせた」と安堵の表情を浮かべた。逆転劇でリーグ最終戦（※第2試合の結果入替戦が決定）を勝利で飾った大教大・入口監督は「我慢強く、勝利を信じていた。この1年でたくましくなった。」と選手達を称えた。

（文：フリーライター 久住 真穂）

京産大 2 $\left\{ \begin{array}{l} 1-2 \\ 1-1 \end{array} \right\}$ 3 大教大

得点(アシスト)者
6分 18 宮脇
61分 19 足立(18 宮脇)
9分 15 鳥尾(7 仲宗根)
29分 5 大久保(4 高垣)
89分 9 森原

第2試合 大院大 vs 近畿大

第一試合、残留の枠をかけて争う大教大、立命大がともに勝利したため、勝ち点差3の大院大、近畿大にとって大きなプレッシャーとなった。

序盤は互いにつつかり合い一歩も譲らぬ激しい展開。そんな中、近畿大は攻撃の核、MF⑦枝本雄一郎が負傷。前半途中で交代を余儀なくされた。その直後、大院大がチャンスをつかむ。MF⑦加藤健太からのクロスにMF 75 高橋周也が頭で合わせ、大きな1点をものにす。そして運命の後半戦、攻撃の厚みが減った近畿大は威力を失う。それでも今までにない泥臭さを見せ、GKと1対1の決定的な場面を幾度となく作るが、決めきることができない。大院大は最後のカードを切り、第4節の怪我以来試合から遠のいていた大黒柱DF⑤馬場悠主将を投入。終盤は近畿大が圧倒的に押し込んでいたが、精神的支柱が入ることにより、試合終了まで1点を守りきった。

最後は勝利と自力で一部残留を決めた大院大・馬場主将は「苦しい試合だったが、今まで一番まとまっていた。最低限の一部残留ができて良かった。」と喜びを噛み締めた。一方、4年ぶりに2部降格が決まった近畿大。高い技術を持つ選手が揃うだけに惜しまれる。山口主将は「サッカーに対する熱さが他のチームより足りなかった。後輩達には申し訳ない気持ちでいっぱいです。」と残し、ピッチを去った。

（文：フリーライター 久住 真穂）

大院大 1 $\left\{ \begin{array}{l} 1-0 \\ 0-0 \end{array} \right\}$ 0 近畿大

得点(アシスト)者
39分 75 高橋(7 加藤)

11月30日(日) 大阪長居第2陸上競技場

第1試合 びわこ大 vs 関学大

前節の結果、事実上阪南大の優勝が決まって迎えた最終節。びわこ大はインカレの対戦相手を考えても4位関学大に勝って2位を確保して終わりたいところ。

試合はいきなり動く。1分、MF 32 湯田逸友のFKをMF②船津徹也がヘッドで決めあっけなくびわこ大が先制する。さらに畳みかけるように10分、関学大DF中央を突破したMF⑦小池遼が押し込み早々と2点をリード。まだ時間は十分。関学大に焦りはない。しかしMF 28 阿部浩之の鋭いドリブルがスタンドを沸かせるが、びわこ大は船津、MF 34 浅津知大が惜しいシュートを放つなど試合を支配する。インカレを逃した関学大にとって今季最後の公式戦をこのまま終われない。

後半早々、FW⑨金尾和泰、DF⑤青戸謙典が惜しいシュート。そして54分、MF⑩小関佑典のパスを青戸が決め1点差に迫ると、びわこ大の動揺を突き1分後金尾がDF 31 津田真吾のクロスを蹴り込みあっという間に同点とする。その後、関学大は金尾、FW⑪桑原透記、びわこ大はMF⑨瀬古朋広と惜しいシュートはあったものの決め切れず、「こんな試合では(インカレは)話にならない(松田監督)」とびわこ大にとっては悔しいドローとなった。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

びわこ大 2 $\begin{Bmatrix} 2-0 \\ 0-2 \end{Bmatrix}$ 2 関学大

得点(アシスト)者

1分 2 船津(32 湯田)

10分 7 小池(25 篠部)

得点(アシスト)者

54分 5 青戸(10 小関)

55分 9 金尾(31 津田)

阪南大 0 $\begin{Bmatrix} 0-0 \\ 0-0 \end{Bmatrix}$ 0 関西大

第1試合の結果により優勝が決まった阪南大に対し、第1試合の結果から2点差以上で勝てばびわこ大を抜き2位になれる関西大。ともに最終戦をきっちり勝ってインカレにつなげていきたいところ。

序盤のセットプレーをうまく活かせなかった阪南大だが、前線からの厳しく忠実な守備で関西大のパスワークを分断し、早い攻撃を仕掛ける。関西大も高い技術でサイドを崩しクロスを入れるが、さすがに21戦6失点の阪南大ゴール前は高く強い。

後半、関西大は負傷のためかリーグ得点王FW⑨金園英学を⑦阪本晃司へスイッチ。55分、阪南大は⑭東浩史、45宮脇達樹とシュートを連発するが、GK①児玉剛が阻む。阪南大は⑬西田剛さらに⑪木原正和と本来のレギュラーFWを送り込み関西大をねじ伏せにかかるが61分に東のFKがバーを叩くなど運にも見放される。関西大はMF 21 大屋翼の位置を高くし75分、阪本がドリブルからゴールを脅かすがワクはとらえられない。終盤は焦りからか、ともにロングボールが増え攻撃がやや雑になる。関西大はロスタイムに大屋の惜しいシュートがあったが、これも決められず、3位のまま長かったリーグを終えることになった。

(文:サッカーライター 貞永 晃二)

通年制リーグを初制覇し喜ぶ阪南大!!



11月30日(日) 長居第2

■ 撮影: フリーライター 久住 真穂 ■